

I はじめに

- 1) 東南アジア一帯に約170種の原種が有り、最近つぎつぎと新種が発見され
今では50~60種がワシントン条約締結後に発見されております。
これらの山採り株は全て輸出・入が禁止となっております。

(主な品種・13/53種)

ベトナムサ ハンギアナム アナイタム フラグミ コバチー ヘレナエ ヒエビー フォングラナエ
vietnamense ・ hangianum ・ anitum ・ phrag.kovachii ・ helenae ・ hiepii ・ huonglanae
ジャッキー オオイアイ サンギー トランリアナム スギヤマナム ヘルマンニー
jackii ・ ooi ・ sangii ・ tranllianum ・ sugiyamanum ・ hermannii 等

- 2) パフィオペディラム属(原種)は六つの亜属で分類されております。

①ブラキペタラム亜属(小型)

ベラチュラム・ニビウム・ゴデフロイエ・ウエンシャンエンセ・コンカラー
アンソン・リュウコキラム等

②パービセパラム亜属(1輪咲)

ミクランサム・アルメニアカム・エマーソニー・デレナティー
ハンギアナム・マリポエンセ・ベトナムエンセ等

③コクロペタラム亜属(段咲)

グラマトフィラム・プリムリナム・リーミアナム・チャンバレイアナム
モケティアナム等

④パフィオペディラム亜属(青葉1輪咲)

チャールズウオーシー・ヘンリヤナム・エグザル・インシグネ
グラトリキシアナム・フェイリアナム・スピセリアナム・ヒルステシマム等

⑤シグマトペタタラム亜属

アクモドンナム・ダイアナム・サンギー・トンサム・フーケレ
ローレンシアナム・カーティシー・ワーディー

⑥ポリアンサ亜属(多花性)

フィリピネンセ・サンデルリアナム・ストネイ・コロパキンギー・ロウイー
パリシー・ハイナルディアナム・プレスタンス等

- 3) 性質について

- ①生育が遅い。
- ②水が好きで、根が無くても半年くらいは健全そうな状態に保持が可能な
ため栽培が上手いっているかどうかの判断が難しい。
- ③品種によっては、植替えてから数ヶ月から1年近く成長を停止するものが有る。
- ④ほんの僅かな不手際で突然、軟腐病になり枯死する。
- ⑤栽培温度(各種別ごとの性質)

【高温性・冬の最低温度:18℃~20℃】

リュウコキラム ゴデフロイエ コロパキンギー ニビウム ランドシー ストネイ エグザル
leucochilum ・ godefroyae ・ klopakingii ・ nibeum ・ randsii ・ stonei ・ exul
アナイタム プレスタンス スパルディー アマビル サンデルリアナム
anitum ・ praestans ・ supardii ・ amabil ・ sandelianum 等

【中温性・冬の最低温度:13℃~15℃】

アクモドンナム アフレトニアナム コンカラー テレナティー タイアンサム エマーソニー ローワイ
 acmodontum ・ appletnianum ・ concolor ・ **delenatii** ・ dianthum ・ emersonii ・ lowii
 ハイナルディアナム ヘンリアナム ベラチュラム ミクランサム サクハクリ
 haynaldianum ・ henryanum ・ bellatulum ・ micranthum ・ sukuklii ・ 整形交配種 等

【低温性・冬の最低温度:5℃~8℃】

スピセリアナム ベナスナム ワーディー インシグネ パリシー カロッサム チャーレスワージー
 spicerianum ・ venustum ・ **wardii** ・ insigne ・ **parishii** ・ callosum ・ charlesworthii
 グラトリキシアナム フェイリアナム ビロッサム マリポエンセ アルメニアカム ヘレナエ
 gratrixianum ・ fairrianum ・ villosum ・ malipoense ・ armeniacum ・ helenae 等

(青字は暗い所に自生している)

⑥栽培に自信が無い時は、光を控えめにする。

⑦交配種は交配に使われた原種によりその性質は依存されると思われます。

Ⅱ コンポストと植え方

1) コンポストの種類 (石・バークのような粒状のものは予め洗浄、乾燥が必要です。)

・水苔、水苔+石材、ミックスコンポスト(石材+木質材+吸着材)
 クリプトモス(杉皮材)、スゴイネ、バイオバーク等どれを使用するかは、
 栽培者の環境と都合に応じた選択となります。

・ミックスコンポストは3つの性質を考慮してミックスする。

①水をはじくもの・・・セラトン、軽石、焼赤玉、日向石、ドロマイト等

②水を吸収するもの・・・バーク、ヤシガラチップ

③腐敗物など環境を悪化させる物質を吸収するもの・・・炭、活性炭等
 (これを入れ過ぎると肥料を吸着して花が小さくなる)

④配合は ①=4 : ②=5 : ③=1 が目安で、あとは自分の好み

2) 植替え時期

・植込み材料が古くなって変色や腐敗があるもの。

・鉢が狭く感じるほど株が育っている時。(株分けも可能)

・花が落下直後。(早めの植替えは有効です)

・温室が有る場合は、真夏以外一年中、植替え可能です。株の調子が悪い
 と思ったら、まず、根の点検を実施してみてください。

3) 植え方

・鉢は素焼き鉢よりもプラ鉢が良いようです。

・バークや石材の場合、株の大きさ(鉢の大きさ)によりコンポストの大きさを
 考慮する。(大きなものは大きいコンポストを)

・ミックスコンポストやバーク単植等は、大きい鉢では、下部に大きい物を、
 上部は徐々に小さい物を使用する。

・コンポストを落とし根の本数が少ないものは、根を洗浄後、一晚メネデール
 に漬けて、植込み時ルートを塗布すると発根が促進されます。

・植替え後は遮光を強目、水を控え目(肥料は与えない)で一ヶ月ほど注意
 深く栽培する。

Ⅲ 栽培の実際(温室栽培)

I) 栽培環境

- 1) **太陽光**(弱い光線を、如何に長く当てる事ができるかがポイントになる)
- ・日陰を好むが予想以上に太陽光を好む。…最低5時間以上/日
 - ・夏季は葉面温度を上げない努力を。
 - ・光の強さは、品種により異なる。
- (比較的青葉関係は光を強め、特にポリアンサ亜属は光を好む)
- ・遮光が必要になります。…(経験値:2枚以上は間隔を10CM以上とする)

亜 属	(夏)	(冬)	備考
ブラギペタラム	50%+50%+30%	30%+30%	
パービセパラム	50%+50%+30%	30%+30%	
コクロペタラム	50%+50%+30%	30%+30%	
パフィオペディラム	50%+50%+30%	30%+30%	
シグマトペタラム	50%+50%+30%	30%+30%	
ポリアンサ	50%	30%	

* 50%=市松模様 ・30%=夏は銀の畳目、冬は網目

- ・季節の移行は徐々に行う。
- 2) **風 通 し**(扇風機は温室内装備のひとつです。)
- ・昼間は風速1mくらいのそよ風が温室全体に有れば理想的です。
 - ・水くれ後は、葉元に溜まった水を如何に早く除去するか(乾かすか)がポイントになります。
- (株を健康に保つ事だけでなく、病気や害虫発生防止に役立ちます。)
- ・開花中のものは風を避けたほうが花が長持ちします。
 - ・5月から10月は場所があれば、遮光して、外へ出して自然の風に当てても有効です。
- 3) **栽培温度**(品種によりことなります。)
- ・基本的には、いかに原産地の気温に近ずけられるかがポイントです。
 - ・冬の最低温度は表記のはじめにの3)－⑤(栽培温度)を参照して下さい。
 - ・問題は、冬よりも夏の暑さのほうが株への影響が大きいのです。
- (夏の夜温の理想は最高で20℃であり・昼は30℃である)
- ・特に低音性のものは、クーラーを使用するか、山上げをして、夜温を下げる工夫が必要になります。
- 4) **水 や り**(1株ずつ株の状態を観察しながら、その日の水くれをする。)
- ・コンポストによって乾燥速度が異なるので、一鉢ずつの冠水が基本となります。その日に冠水するか、しないかはその場で判断する。
 - ・平均的な水くれ日をきめる。(毎日なのか、2日に1回なのか、3日に1回なのか、1週間に1回なのか、その見定めが必要です。)
 - ・鉢内を乾燥させてはいけません。

- ・ どの状態が水くれ時なのか、コンポスの状態を、観察し判断する能力が身につけば、水くれ作業はひと安心となります。
- ・ 生育期(2月末～10月末)は充分に、休眠期はやや控えめに
- ・ 水くれ時間帯は、夕方、夏は鉢内の温度を下げる効果を期待・冬は夜の温室内湿度を上げる効果を期待する。
(湿度は昼=70～80%・夜80～90%が欲しい)
- ・ 温室の設備状況によっても、乾燥速度はかわり、株の状態が良ければ早く乾き、悪ければ乾きは遅くなります。

5) 肥料(弱った株を元気にする事は出来ません。)

- ・ 肥料は株の成長期に与えることが有効である事は、植物全てに言える事
真夏の暑い時、真冬の寒い時の生育停止状態には不要となります。
- ・ 温度をあげて、苗を1年中育てる場合等は与えます。
- ・ 固形有機肥料の施肥は、最低温度が15℃以上で栽培の場合2月中旬から梅雨明けまでとします。
- ・ 液肥は希釈が自由で、その成分も目的に応じた施肥ができます。

【参考】

(窒素(N) 燐酸(P) 加里(K)…施肥は7日～10日に1回程度)

- ① 5 : 10 : 5 =ハイポネックス(市販生育用)…1,000倍
- ② 18 : 18 : 18 =ピーターズ(生育用)…2,000倍以上
- ③ 15 : 11 : 29 =BLC(高硝酸態で生育用)…2,000倍以上
- ④ 10 : 30 : 20 =BLC(低濃度で花芽分化・高濃度で開花促進)
- ⑤ 15 : 0 : 15CA =BLC(日照不足を補う)
- ⑥ 14 : 24 : 24 =ガビオタ(須和田)…2,000倍以上

6) 病虫害対策(株の異状に気付いたら一刻も早い処置を)

- ・ 年に2回(春・秋)殺虫剤+殺菌剤の消毒をする(スミチオン+ベンレート)
- ・ 病気の種類は大別すると細菌によるものとカビによるものの2種類で90%をしめます。

①【バクテリア(細菌)によるもの】…軟腐病(独特の臭いがあります。)

- ・ 病原体のバクテリアが傷口から入る場合と、害虫の口傷から、また、気孔から侵入して発病する。特に株の中心部に発生した場合、復帰は期待できません
葉元1枚程度の初期症状であれば、病巣を残さず切除し薬剤塗布で完治する事もあります。

②【ファンギ(カビ類)によるもの】…ガラスやビニールに発生したカビ類で発病 褐色斑点病・黒色斑点病

- ・ 株の傷口や害虫の口傷から侵入し発病
- ・ コナカイガラムシの被害が最も多く、葉の裏やクボミに潜んで液汁を吸うので組織を傷つけて感染症導きます。
- ・ 病巣を切除し、殺虫剤と殺菌剤混合液で消毒する。

③【ナメクジの食害】

- ・ナメキール等幾つかの殺虫剤があるので、その散布。
- ・随時捕殺による駆除が欠かせない。

④【薬品一覧表】

薬品名	入れ目	価格 ¥	効能	その他
オサダン水和剤	100g	810	ダニ	
スミチオン	500cc	2,290	殺虫剤	
スプラサイド乳剤	100cc	550	殺虫剤	
アクテリック乳剤	500cc	2,600	殺虫剤	
サターナ水和剤	100cc	100	殺菌剤(軟腐病)	
リドミルMZ水和剤	500g	2,600	殺菌剤・銅剤(カビ)	
キノンド40	250g	?	殺菌剤(カビ・炭素病)	
ベンレート水和剤	100g	1,000	殺菌剤(軟腐病・カビ)	
ビスダイセン水和剤	250g	700	殺菌剤(カビ)	
リゾレックス水和剤	500g	1,900	殺菌剤(鉢内消毒)…鉢ごとザブン	
(水和剤には展着剤を混入した方が薬剤がハジカレない)				

IV 来年の花を咲かせるために

開花後の処置は株の成長に大きく影響しますので、多花性のものは、最下段の花が、落下したらそのステムは元から切除します。生育用の肥料を与え夏の間、株を充実させます。9月から10月頃10℃～15℃の低温に40～50日あわせ花芽分化処理をして、12月花芽が上がったら、開花促進の肥料を与えます。

以上が野口の大まかな栽培法です。

以 上